



# 福島医大病院ニュースレター

編集・発行/附属病院患者サービス向上委員会

〒960-1295 福島市光が丘1番地 TEL (024) 547-1111 ホームページ <http://www.fmu.ac.jp/byoin/index.php>

## 新任挨拶



医療安全管理部 部長  
**沼崎 広法**

平成26年4月1日より、福島県立医科大学附属病院医療安全管理部部長を務めさせていただくこととなりました。微力ですが、福島県立医大病院の医療の安全と質の向上に少しでも役立てるよう努めてまいります。医療安全管理部では、医療従事者と患者さんの間に立ち、公平な立場から医療の質を評価・分析し、患者さんの安全を守るために様々な活動を行っています。具体的には、①ヒヤリ・ハットした事例の根本原因を分析して対策を立てる、②毎月、医療安全ニュースを院内に配布する、③定期的に院内の巡回を行う、④院内の報告事例を横断的に分析・検討し、対策を作成し周知する、⑤他施設の報告事例を周知する、⑥医療安全講習会を定期的に開催する、⑦医療事故防止マニュアルを作成・改訂し、全職員にポケット版マニ

アルを携帯させる、⑧院内急変対応システムの構築を目指し、看護師を中心とした教育プランを企画推進する、など種々の取り組みを橋本クオリティアドバイザーのご指導をいただきながら、副部長、ジェネラルリスクマネージャー、事務の方々とともに行ってまいります。

報告事例を分析し対策を立てマニュアルを作るというこれまでの医療安全の考え方を補完するものとして、うまく行っている事象を分析し、マニュアルに頼らず不慮の事態にも柔軟に対応できるような、“レジリエンス・エンジニアリング”という考え方が、医療安全の世界で注目され始めています。そのような観点も含め、これら活動を通して県民の皆様安全で質の高い医療が提供できるよう、これからも努力を続けて参りますので、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



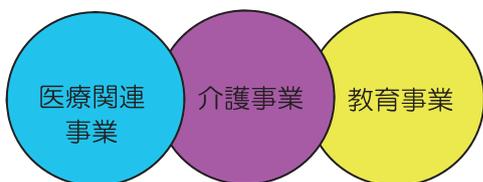
リハビリテーションセンター  
部長  
**大井 直往**

平成26年7月より矢吹省司前部長の後任として、福島県立医科大学附属病院リハビリテーションセンター部長を務めさせていただくことになりました。主に高齢の方や障がいを持つ福島県民の皆様少しでもお役に立ちたいと、埼玉県よりやってまいりました。

第27号のなかみ

- 1 ページ……○新任挨拶
- 2 ページ……○「パンダハウス」チャリティーバザーが開催されました  
○入院用品のレンタルサービスを開始しました！
- 3 ページ……○漢方内科が開設されました  
○リレー通信「食」  
○高校生1日看護体験
- 4 ページ……○ふくしま国際医療科学センター整備について

全国展開するニチイの3つの事業



株式会社 ニチイ学館

福島市栄町6-6 UNIXビル3F  
Tel 024-524-2835 Fax 024-522-0306

マチのほっとステーション  
**LAWSON**

ローソン福島県立医科大学附属病院店 (エレベーターホール隣)  
ローソン福島県立医科大学店 (7号館内)

リハビリテーション科は内科や外科、整形外科と比較しますと新しい診療科です。もちろん病気や外傷も扱うのですが、主に患者さんの障がいを扱います。具体的に言いますと、病気が治ったか治らないかではなく、家で生活できるのかできないのか、動けるのか動けないのか、手が使えるのか使えないのか、食事がとれるのかとれないのかなどの生活活動を見て対応しています。究極的には人生が幸せなのか幸せでないのかというところに至るのですが、医学や健康だけで生活満足度(QOLといいます)の100%を占める要素になるわけでもないで、多少なりともそこも重視して関わっています。病気や外傷で落ち込んでいる方の身体も心も、そして家族の方も元気になって、なるべく元に近い環境で生活できるようにすることが私

たちの役割と考えています。

リハビリテーション科の診療はダイナミックで守備範囲が大変広く、医師だけではすべてに対応しきれません。様々な資格を持つ多数のメディカルスタッフによって支えられています。病院内では理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、リハビリテーション看護師、医療ソーシャルワーカー、臨床心理士、義肢装具士、リハビリテーション医師が主なスタッフです。それに加え、病院外の地域の医療・介護・保健スタッフとのチームプレーによって包括的なリハビリテーションが行われます。福島県全体とも連携を深め、「日本の中、いや世界の中で、福島が一番、高齢者や障がい者にとって住みやすい所」と言われるよう努力してまいります。

## 「パンダハウス」チャリティーバザーが開催されました

8月5日～6日の2日間、病院玄関ホールにおいて「NPO法人パンダハウスを育てる会」によるチャリティーバザーが開催されました。バッグや小物、アクセサリなど会員による手作りの品々が展示されました。おかげさまでもちまして、たくさんの方にご来場いただき、大変盛況のうちに終了いたしました。

「パンダハウス」は医大病院の小児科に入院中の患者さんとそのご家族に“もうひとつのわが家”としてご利用いただけるようにと福島市蓬萊町に設立された宿泊施設です。現在では小児科に限らず、医大病院に入院・通院中の患者さんとそのご家族に外泊や休息のため広くご利用いただいております。

「パンダハウス」は会員会費、今回実施されたバザー収益、一般の方からの募金、ボランティア・スタッフによるサポー

トにより運営されております。今後とも、パンダハウスへのご理解をいただきますようお願いいたします。

なお、次回のチャリティーバザーは12月頃を予定していますので、是非お立ち寄りください。



NPO法人パンダハウスを育てる会事務局

TEL 548-3711

パンダハウスHP <http://pandahouse.org>

## 入院用品のレンタルサービスを開始しました！

附属病院 病院経営課・看護部

7月より入院時に必要なパジャマやタオルなどの日用品のレンタルサービス「アイレンタル」を導入しました。

入院時にパジャマやタオル、オムツなどの必要な日用品を準備することは患者様にとって負担となっています。また、それらを洗濯のために持ち帰り、お見舞いの都度持参することは患者様のご家族にも負担となります。

その負担を軽減するために、株式会社アイシステムオフィスが「アイレンタル」を開始しました。日額定額で、パジャマ、タオル、オムツなどの入院に必要な日用品が使用制限もなくレンタルでき、ベッドサイドまで配達されます。いつでも清潔なパジャマ、タオルを使うことができ、患者様や患者様のご家族の洗濯の手間も大きく解消されます。オムツなど毎日使う消耗品は足りなくなる心配もなく使用できます。病室に保管しておく必要がないため、病室の整理につながり、看護サービスの向上にもつながります。

レンタル希望の患者様は、1階アイレンタル窓口へお越しください。



受付スタッフ



配送スタッフ

病衣・タオル・紙おむつ・日用品

手ぶらで入院・手ぶらで退院

アイレンタル

お申込・お問合せ先：レンタル受付窓口

024-548-8777

\* 院内1階、院外処方箋FAXコーナー横  
月～土曜日 9:00～17:00 (日祝祭日休業)



株式会社アイシステムオフィス



本年7月1日に漢方内科が設置されました。部長という大役をおおせつかりました小宮と申します。会津医療センターの漢方医学講座の三瀧忠道教授、鈴木朋子准教授とともに本診療科を運営させていただきます。

今回、漢方内科が設置されたことにより、医大は県民の皆様にも最先端の高度医療を提供していくとともに、漢方による専門的な治療が可能になりました。西洋医学の診療を尊重しながら、漢方独自のすぐれた特徴を生かした治療を行います。漢方診療は、人の心と体を全体的にみる全人的医療であり、患者さんの病態を把握して、その方向性を正しながら回復させる医療です。従って、症状があればそれは治療の対象となり、患者さんの状態をよくみて（証をみるといいます。）治療法を決定していきます。近年、大学病院を含め全国の多くの医療機関において漢

方診療の重要性が認識され、医学部学生にも積極的な漢方教育がなされております。高齢化社会が進み、またストレスが多い日本社会に大きく期待されている診療分野のひとつといえるのではないのでしょうか。

本院におきましては、西洋医学だけでは十分な満足が得られない難治性疾患や、副作用などのために十分な治療が困難な患者さんにこそ、漢方内科を受診していただきたいと思っております。院内または院外からの紹介状が必要になりますので、ご理解のほどお願い申し上げます。

会津医療センターでは、三瀧教授を中心とする漢方内科（煎じ薬・エキス剤等のお薬）、漢方外科（鍼灸）が漢方医学を駆使して、診療に尽力されておられます。当院の漢方内科も、県民の皆様の健康に貢献できるよう、また県内のもう一つの漢方診療の拠点となれるように努力していく所存です。何卒よろしくようお願い申し上げます。

## リレー通信 「食」

けやきの会 箭内 照代

子供の頃、夏休み中の昼食の定番は、ほぼ100%“冷や麦”“饅頭”“具なし水団”のいずれかであった。多分そのせいで50代半ばまで饅頭系が苦手であったが、年とともに最近は“蕎麦”好きに変わった。食事の時、一切クチャクチャと音をたてることを禁止されたが、“饅頭”だけは例外で音をたててもOK！ 普段無音で食べる反動とストレス解消…なっていたかギモン…とばかり弟たちと“これでもか”というほど大きな音をたてたものだった。

長年の習慣と癖で「嚙る」という能力が退化している欧米人から見れば、日本人の「麺を嚙る」という食べ方は「不作法」「マナー違反」「エチケットに反する」等と言って呆れているが、これだって日本の長年の文化なのだから恥じることはない。大きな音で“蕎麦”を嚙って

いると子供みたいに楽しくなる。

戦後の食糧難時代、脱脂粉乳にコッペパンの給食と母の貧しい手料理を食べていたころ、「心もお腹も」満たされていたように思う。

はたや独居の自分は、インスタント食品に囲まれ、お茶や味噌汁に至るまで「お湯さえあれば！」「何時でも何処でも便利！」、そして「時間を得てる！」と豪語している。家族のために手間暇かけて料理をしていた母の味と香り、包丁の音、お椀から伝わる粗食の温もり…等、今の生活の場面から捨てている私の“食”は、この先何処に行き着くのだろうか？ 食事を十分にとることのできない発展途上の国々に比べて、なんと贅沢な“食”であろう！！

## 高校生1日看護体験

看護部 尾形 瑞子

毎年福島県看護協会では、看護現場の実際に触れ、「看護の仕事は人々の生命を守る大切な仕事であること」の理解を深め、「看護への関心が高まること」を目的に県内の高校生を対象に高校生1日看護体験事業を行っています。当院の看護部でも県北地区の高校2・3年生19名（男子学生2名・女子学生17名）を受け入れ看護体験を実施しました。当日は、誰1人遅刻することなく、受付時間には全員がそろい、今回の看護体験への意気込みの強さを感じました。午前中は、それぞれが病棟で看護ケアの見学や、またスタッフに日頃疑問に思っていることなどについて熱心に質問をしている姿がありました。

午後からは、ヘリポートを見学し、ドクター、ナース、パイロットの方から仕事の内容などの説明を受けました。また普段では経験できないヘリコプターへの搭乗や、フラ

イトナースが現場に向かう時に背負うリュックを背負わせてもらうなどの体験をしてもらいました。

最後に意見交換会を行い、ほとんどの高校生が「ますます看護師になりたいと思った」「やりがいを感じた」「大学に入学し県内で働きたい」などの感想が聞かれました。短い時間ではありましたが、私たち受け入れ側も、将来仲間になるかもしれない高校生たちがとても頼もしく、そして初心に戻る事ができた1日でした。





# 福島医大病院ニュースレター

## ふくしま国際医療科学センター整備について

復興支援推進課

ふくしま国際医療科学センターは、震災と原発事故後の県民の心身の健康を将来にわたり見守り、安心と安全を医療の面からサポートすることを目的に発足し、平成28年度の全面稼働に向けて施設の整備を進めています。

附属病院南側に建設するD棟には先端診療部門が入り、県民の皆様の健康を守り支えるための医療の砦として最先端の高度医療設備を整えると同時に、診療環境の整備にも配慮がなされています。

例えば、福島県初の小児専門医療設備となる「こども医療センター」は、子どもたちのためのイベントホールやプレイルームなども備える予定です。また、入院患者を女性に限定したスペースや、高いクリーン度を保った広いスペースなどが設けられます。女性の患者さんが安心して治療に専念できるように設置し、高クリーン度の部屋の設置は、これまで病室からの外出を制限せざるを得なかった患者さ

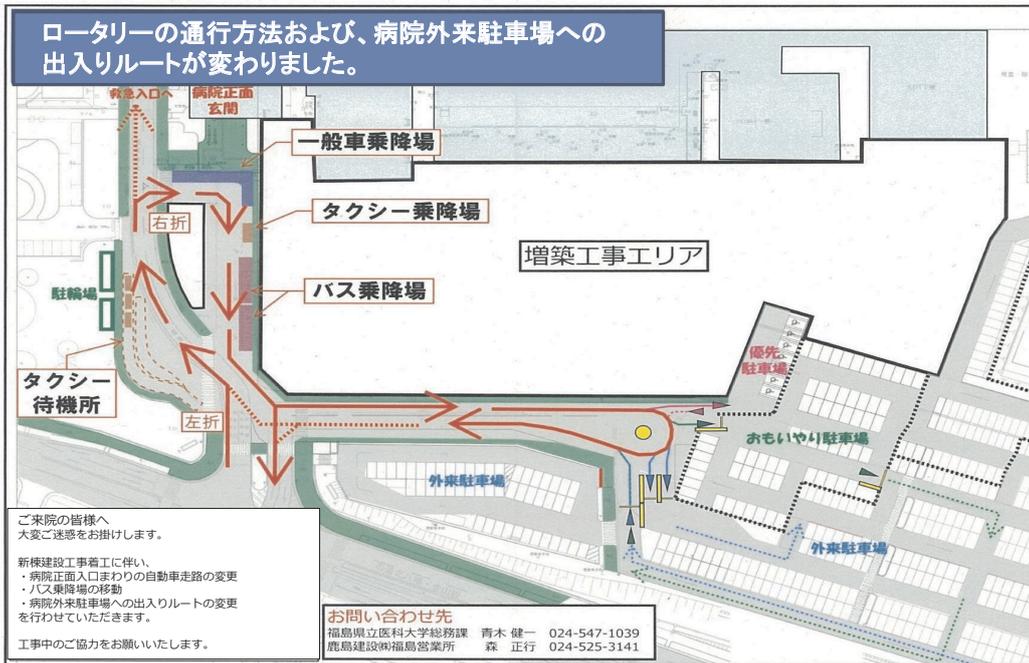
んが、歩くことができるスペースを確保するなど、院内の医療環境を整備していきます。

建設工事に伴い、附属病院正面のバス・タクシーの乗降場や、駐輪場の場所が以下のおり変更となりました。附属病院を利用される皆様にはご不便をおかけしておりますが、何卒ご協力をお願いいたします。



D棟パース図

### ご来院の皆様へ



すべてを地域のために

# 東邦銀行

ご利用・お問い合わせは **福島医大病院支店**

窓口営業時間：平日午前9時から午後3時

電話 024-548-5331 (受付時間:平日午前9時から午後5時)

## スターバックスコーヒー福島県立医科大学附属病院店

営業時間 平日 7時～20時  
土日祝 9時～19時

アメリカシアトル生まれのスペシャルティコーヒーストア。高品質のアラビカ種コーヒー豆から抽出したエスプレッソがベースのバラエティ豊かなエスプレッソドリンクやペストリー、サンドイッチをお楽しみいただけます。

